

③1 上野遊水地事業

受賞機関 国土交通省 近畿地方整備局 木津川上流河川事務所

<評価>

天然の河道狭さく部である岩倉峡より直上流の上野盆地で、戦後最大規模の洪水を安全に流下させることを可能とした遊水地整備事業。下流の狭さく部を開かず、遊水地を設けることで下流域に影響を与えず治水安全度を大きく向上させた点や、工場や商業施設の立地に寄与した点が評価された。

はじめに

三重県伊賀市を流れる淀川水系木津川は、昭和28年の出水をはじめとして度重なる氾濫を繰り返していたため、昭和43年に木津川上野地区治水計画（川上ダム及び上野遊水地）が策定され、昭和44年に工事に着手した。周囲堤・越流堤・排水門・排水機場等が完成したことにより平成27年の出水期より全体運用を開始した。

事業の概要・成果

上野盆地は川幅約60mの岩倉峡による狭窄部の直上流にあり、下流の改修が進まない状況で狭窄部を開削すれば下流域の京都府・大阪府の大都市の治水安全度が著しく低下する。このため、下流への流量増加を抑制しつつ、上野地区の浸水を防止する対策として、河道掘削を含む遊水地事業と上流に建設中の川上ダムで洪水を調節することとした。

上野遊水地は、長田、木興、新居及び小田遊水地の4つの遊水地からなり、合計面積約250ha、約900万㎡の容量を有している。

遊水地内の田畑は従前どおりの耕作が可能であるが、湛水を将来にわたって容認することについて、地役権補償を



上野遊水地事業

行った。治水対策を切望する地元関係者の協力は事業を進捗させる重要な鍵であり、地役権による補償は上野遊水地の特色である。

上野遊水地による治水安全度の向上に伴い、交通立地の良い伊賀市に新たな工場や商業施設が多数進出してきており、遊水地は地域発展の重要なインフラとなっている。

おわりに

上野遊水地の運用は開始されたが、木津川及び支川服部川・柘植川の河道掘削等、上野地区の治水安全度の向上及び地域発展のため今後も鋭意関連事業を進捗していく。

賛助会員 いであ(株)、(株)エイト日本技術開発、(株)建設技術研究所、(株)東京建設コンサルタント、日立造船(株)、三井共同建設コンサルタント(株)

③2 情報基盤整備事業～土砂災害危険度情報のテレビのデータ放送での公開に関する取組～

受賞機関 広島県 土木建築局 砂防課

<評価>

土砂災害危険度情報伝達を、全国で初めて地上放送局と連携し、地上デジタル放送のデータ放送で配信開始した。インターネットを利用しない高齢者等でも利用しやすいようテレビを利用した点や、視覚的に危険度情報を提供した点が評価された。

はじめに

大雨による土砂災害発生危険性が高まった際に、気象台と県が共同で発表する「土砂災害警戒情報」は、市町単位で発表される情報である。この土砂災害警戒情報の内容を補足するため、地域の詳細な土砂災害発生危険度を5kmメッシュで情報提供する「土砂災害危険度情報」を県のホームページで公表している。

本情報は、土砂災害の危険性の高まりを確認する有効な情報であるが、高齢者などインターネットを利用していない県民に対しては、情報の伝達できていない状況にあった。

事業の概要・成果

これを踏まえ、広島県砂防課ではインターネットを利用していない県民にとって防災情報を入手しやすい手法が必要であると考え、地デジのデータ放送に着目した。そこで、県内全域で視聴が可能であり、既に河川水位などの各種防災情報コンテンツが充実しているNHK広島放送局（以下、「NHK」という）に話をもちかけ、土砂災害危険度情報が多くの県民に役に立つ情報になることについて、直接プレゼンを実施した結果、NHKの理解と賛同を得ることができた。



放送画面例（画像提供：NHK広島放送局）

実施にあたっての課題として、NHKから公共放送の責任上安定した情報提供が必須であるという理由で専用回線の設置（費用は県側が負担）が必要との条件が提示されたが、配信を実現する方法を技術的に検討した結果、既存の県インフラを最大限活用することにより、NHK側の条件を満たすシステムの構築を実現した。

平成26年12月に全国で初めて地上デジタル放送のデータ放送を活用した「土砂災害危険度情報」の配信開始に至った。

おわりに

今後も県民に対して、わかりやすく使い勝手の良い防災情報の提供について、取組みを進めたい。